

ご挨拶

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、来る2022年9月10日(土)に、愛媛大学城北キャンパスにおいて第10回日本放射線事故・災害医学会を開催する運びとなりました。

日本放射線事故・災害医学会は、1997年に設立された放射線事故医療研究会を母体として2013年7月1日に発足し本年で10年を迎えます。その目的は、「緊急被ばく医療の現状、事故事例、放射線影響および線量評価等の最新の学術的知見を共有し、放射線事故・災害対策のより良い実現に向かって社会に対して提言を行い、また自らそれらを実践していく」であり、医療関係者、放射線防護や保健物理の専門家、防災関係の実務者等が集い、福島第一原子力発電所事故を中心に様々な放射線事故、災害に対し問題の提起や認識の共有を図ってきました。

10回目となる今回は、「被ばく医療、次の10年への展望」をテーマに掲げ、代表理事の明石真言先生(東京医療保健大学)から、本会の歩みと今後の展望に関する記念講演をいただきます。引き続き最近発生した「事業所での放射線被ばく事故」の報告、原子力災害医療の視点から「原子力災害時のオンサイト医療」と「原子力災害時の病院避難」について現状や問題点の共有を図るセッションを行います。午後には、第9回総会で課題が提起された「福島第一原発の廃炉作業に伴う放射線管理」の現状について講演いただき、さらに人材育成の柱として令和3年度に始まった「原子力災害医療の新研修体制」および現在被ばく医療の現場では実施が難しい「放射性物質による汚染を伴う傷病者の空路搬送」の状況と課題について、シンポジウムを設けて識者や関係者からの発表と意見交換を企画しております。

本学会が情報と意識の共有の一助となることを、さらには事故や災害が発生した場合には迅速かつ適切な対応を実施し得る体制の構築に役立つと確信しております。

尚、新型コロナウイルス感染症のため、前2回の総会はウェブ開催されましたが、with コロナに動き始めた昨今の状況を考え本年度は、松山の地で現地開催とともに Hybrid での参加ができるように予定しております。

学会は本来参加者の会費により運営されるべきではありますが、遺憾ながら会費のみでは十分な運営が難しいのが実状でございます。つきましては、本学会の趣旨をご理解いただき、会の開催に格別のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、貴社のさらなるご発展を心より祈念申し上げます。

謹白

2022年7月吉日

第10回日本放射線事故・災害医学会
大会長 佐藤 格夫 愛媛大学大学院医学系研究科 救急医学
山本 尚幸 公益財団法人原子力安全研究協会
放射線災害医療研究所

開催概要

- 会 名：第10回日本放射線事故・災害医学会
- 会 期：2022年9月10日（土）
- 会 長：佐藤 格夫（愛媛大学大学院医学系研究科 救急医学）
山本 尚幸（公益財団法人原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所）
- テ ー マ：被ばく医療 次の10年への展望
- 会 場：愛媛大学城北キャンパス（南加記念ホール・レジオナルコモンズ）
〒790-8577 松山市文京町3番
TEL 089-927-9000（代）
- 参加者数：約200名
- プログラム（予定）
教育講演、シンポジウム、特別講演、一般演題（ポスター）
- 学会事務局：
E-mail：10thjaradm@gmail.com
第10回日本放射線事故・災害医学会事務局
・（公財）原子力安全研究協会 担当 山越、平嶋
〒105-0004 東京都港区新橋5-18-7
TEL：050-9001-2825、050-9001-2842
・愛媛大学大学院医学系研究科救急医学 事務担当 菊池
・愛媛県大学院医学系研究科放射線科
〒791-0295 東温市志津川454
TEL：089-964-5111（代） FAX：089-960-5109